

学校名	兵庫県立あわじ特別支援学校
1 ICT を活用した自立活動指導の実際	
(1) 指導期間・指導時数 4月～12月 月1, 2回の遠隔交流を持つ。 それ以外にも撮影した動画を見る交流をする。 (2) 使用した遠隔システム (小) Google classroom (中) Google meet, ZOOM (3) 指導目標 ○長期目標 (小) ・手を使って道具や材料を操作しようとする ・友達との関わりを楽しむ (中) ・健康状態の維持向上に努める ・他者との関わりを楽しむ (4) 自立活動の区分・項目 1 健康の保持 (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること 3 人間関係の形成 (1) 他者との関わりの基礎に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること 4 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用に関すること (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること 5 身体の動き (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (5) 指導内容 小 お楽しみ会や誕生会での発表をオンラインでつないだり動画を見せ合ったりする。 中 授業で作成したものを見せ合ったり、遠隔システムで一緒に合奏をしたりする。 (6) 指導の手立て ・スピーカーフォンを使い、音声を拡大するなどして聞こえやすくする。 ・訪問児が見える高さや位置でタブレットを固定する。 ・通学児の顔がしっかりと見えるように撮影する。 ・交流の時間は短時間に収める。	
	

(7) 指導上の工夫

- ・保護者にも参加してもらい児童生徒の緊張感を減らす。
- ・制作活動をするときにも作り方を動画で見せるなどして楽しく使い慣れてもらう。

(8) 校内の指導体制

- ・担当者1名での訪問であり、学部内での連携体制が作りづらく情報伝達の機会が十分に取れないのが課題。今回はこの部分を改善するため、小・中学部合同での事例検討会を2回持った。訪問児童生徒の授業風景を動画を見て、担当教員のねらいや思いなどを共有し、アドバイザーである兵教大の石倉先生から指導助言をいただいた。訪問の授業を初めて見る教員がほとんどで、児童生徒の実情を知ってもらうために大変よい機会となった。

(9) 関係機関との連携（在籍校・保護者・医療・福祉等）

- ・小学部中学部ともに理学療法士との連携を行っている。同じ時間に訪問し、児童生徒の様子を見ながら情報共有を行った。
- ・医療情報については直接の連携はなく、間接的に保護者から情報を得た。

2 成果と課題

児童生徒の変容	(指導開始後)
(指導開始前)	
1. 在宅のため通学生との交流の機会がなく、クラスメイトの判別が難しかった。	1. お気に入りのお友達ができ、画面越しにその子を識別できるようになった。
2. 訪問生徒がどんな子か通学生にはよくわかっていなかった。	2. 何度も交流することで訪問生徒のことをよく知り、担当教員が学校から訪問児のところへ行く際「行ってらっしゃい」等の言葉が通学生から自然に聞かれるようになった。
3. 認知面に関する教員側の働きかけが弱かった。数は分からなくても日常的に数を表す言葉かけなどを増やすように指導を受けた。	3. 道具などを出すときには「3, 2, 1じゃーん」という言葉を毎回使用した。児童は数の理解はまだ難しいが、言葉の雰囲気ですぐに「何かが出てくる」ということが分かり、以前より注目するようになった。
4. ブロックを蹴る動きが安定せず、教員が少し支えていた。	4. ブロックの強度を弱め、すぐ倒れるように工夫したことで、支援なしで自力でブロックを蹴って倒せるようになった。
5. 座位保持椅子がなく、クッションチェアを使用。姿勢保持が難しかった。	5. 保護者と相談し、座位保持椅子を使用することを検討してもらえるようになった。
6. 左手の動きが弱く出ている。	6. とげとげしたもの、スライムなど様々な触感のものを握らせ、反応を引き出すことができた。

成果

- ・画面越しであっても、顔を見て同じ時間帯に活動をすることで、一体感を持つことができた。児童生徒だけでなく教員にとっても訪問教育を知る機会となった。
- ・保護者が学校や他の生徒とつながることをとても喜んでくれた。保護者も一体感を持つことができた。
- ・専門の大学教員に指導を受け、担当教員も自信をもって明確な目標設定で授業を進めていくことができた。

今後の課題

- ・訪問教育に対する校内の関心を高める。
- ・継続的に訪問教育の情報共有ができる校内の体制づくり
- ・アドバイスをいただける専門家とどうつながっていくか

3 ICTを活用した自立活動指導についてのコメント (児童生徒、保護者、教員等の声)

- ・継続して取り組むことで保護者がとても喜んでくれた。
- ・画面越しでも何度も顔を合わせることで、数少ない対面の機会の交流がよりよいものになった。
- ・専門の先生に指導を受け、より正確な実態把握ができた。授業の方向性についても明確になりとても有り難かった。